

福浜議員要望項目一覧

令和4年度12月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(1) 超円安の恩恵を地方にも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物価高騰」「悪い円安」論が主流の中、国は賃金アップを企業に求めています。下請けが多く、原材料費や燃料高騰にあえぐ、本県の中小企業に、賃金を上げる余力があるのか？大いに疑問を感じています。 ・超円安が輸出産業に恩恵をもたらしているとするならば、大企業での賃金アップと同等に、本県のような地方の下請け中小企業に対しても利益分配が行われるのが当然であり、国に対して、しっかり訴えていただくことを切に要望します。 	<p>中小企業等が賃上げ原資を確保するには、コスト上昇分を適正に価格に反映できることが必要であり、この度の国の総合経済対策において、中小企業が価格転嫁しやすい環境の実現に取り組むことが盛り込まれたところである。こうした流れを加速化するため、地方の中小企業の観点から、円滑な価格転嫁や取引条件の適正化に向けた取組支援、下請事業者への配慮等を国に要望することとしており、今後も引き続き国に求めていく。</p> <p>また、円安は大企業だけでなく、地方の中小企業にとっても海外販路拡大の好機となることから、直接的に円安の恩恵を享受し、賃上げ原資確保につなげられるよう、12月補正予算において、為替環境を活かして海外市場の獲得を目指す県内事業者の挑戦を支援することを検討している。</p> <p>【12月補正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円安を契機とした海外展開強化促進事業 45,410千円 ・物価高騰を乗り越える物流効率化対策事業 45,000千円
<p>(2) 新型コロナウイルス関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8波とインフルエンザの同時流行が指摘され、警戒が必要な反面、マスク着用によりインフルエンザ流行を抑止してきた状況やオミクロン株以降は致死率が低下し、高齢者の死亡が顕著という現状を鑑みれば、高齢者に絞ったワクチン接種奨励等の改善が必要ではないでしょうか。 ・「過度な不安感」が経済回復や学校生活の制限、不登校の要因になっている側面もあります。「感染増」でも「病床使用」が逼迫しない限り、大きな問題とはならず、高齢者のワクチン接種で入院数も抑えられると思います。バランスの取れたWITHコロナ政策を国とともに進めていただくよう要望します。 	<p>重症化リスクの高い高齢者が年内にワクチン接種していただけるよう、医療機関や市町村と連携し、個別接種や集団接種により1日5,000回以上の接種体制を構築するとともに、高齢者福祉施設等とも連携・協力して、施設でのワクチン接種についても進めているところであり、各種メディアによる広報や街頭キャンペーン等により、オミクロン株対応の2価ワクチンの効果や安全性等についての周知・広報を行い、その中で、高齢者に対する接種奨励も併せて進める。</p> <p>本県では、Withコロナを前提とした感染対策やニューノーマルな事業活動を推進し、過度な行動抑制や感染防止対策に繋がらないよう配慮しながら県民にメッセージを発信しているが、国も新たな行動制限を行わず、重症化リスクのある高齢者等を守ること重点を置いて、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ることとしており、引き続き、バランスの取れたWithコロナ政策を国とともに推進する。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(3) 燃料高騰下での銭湯存続対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の公衆浴場、いわゆる銭湯は、昨年4月に400円から450円に値上げしたばかりというタイミングもあり、現在の燃料高騰を料金に転嫁できず悲鳴を上げています。沸かす必要のない鳥取市内の天然温泉でも、利用客の減少で収益が目減りし、鉄分が付着して配管の半分を覆う状態になっても取り替えすら出来ない状況です。 ・昭和の息吹が残る昔ながらの銭湯は、「ひなびた」雰囲気が観光客に受ける要素がある重要な観光資源でもあり、そこに住まう人々の文化でもあります。 ・コロナ禍以前は、鳥取市内の銭湯では市内のビジネスホテルと提携して宿泊客に「銭湯無料券」を配布。ホテル側としては「サービス向上」、銭湯としては「利用客増」のWIN-WINの関係が構築されていましたが、コロナによる宿泊客の減少で、この提携も途絶えてしまいました。 ・そこで、本県の銭湯を存続させるため、ビジネスホテル等の宿泊者に対し、最寄りの銭湯を利用する場合、入浴料450円のうち200～250円程度を県（と市町村）で助成し、利用者増に導く新たな支援制度の創設を要望します。 	<p>一般公衆浴場には公衆浴場確保対策費市町村補助金により、公衆浴場の運営及び利用促進に係る経費を県と市町村で助成しており、さらに燃油高騰についても燃油価格上昇分を同様に助成している。</p> <p>また、公衆浴場業衛生同業組合に対しては、生活衛生業の振興、衛生水準の向上を目的に組合が行う後継者育成、組合員の資質向上、消費者サービス向上に係る事業に対して生活衛生関係営業振興事業補助金を交付している。</p> <p>提案いただいたホテルと連携した公衆浴場の利用促進については、以前、一部のホテルと公衆浴場で独自に取り組みされていた例があるが、上記の補助金を活用して実施することも可能であるので、公衆浴場業生活同業組合等とも相談してみたい。</p>
<p>(4) 「全共後」の鳥取和牛PR策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このたびの鹿児島全共以降、「鳥取和牛のPRをしにくくなった」という声を飲食店等から聴きます。たしかに肉牛では日本一を逃しましたが、種牛では前回の宮城全共を上回る好成績を収めたのに、残念で仕方がありません。 ・こうした空気感が5年後の北海道全共まで続くのはあまりに勿体なく、何も手を打たずにいるよりも、鹿児島全共での「鳥取和牛」に対するプラスの評価面を、飲食業やレストランを併せ持つホテル、温泉旅館等の関係者に、もっとアピールする必要があるのではないのでしょうか。改善を要望します。 ・もちろん、次回の「全共」では、肉牛・種牛揃って「上位」にランクされるよう、技術的改良や白鵬85の3の母牛が「飛驒牛」だったように、良質な雌牛の県外からの導入等に対する県のさらなる支援が不可欠であることから、併せて要望します。 	<p>10月27日に生産者代表と関係者で構成する「全国和牛能力共進会北海道大会に向けた戦略会議」を開催し、鹿児島大会の検証と次回大会の対策の検討を開始した。11月末を目途に対策案を作成することとし、その中で、繁殖雌牛の改良のための支援やスーパー種雄牛造成のための施策を検討する。併せて、県内子牛セリ市場の価値を高めるため、ゲノム育種価の研究、活用についても引き続きしっかり取り組む。</p> <p>首都圏や関西圏、海外への鳥取和牛のブランド力向上については、定着した「肉質日本一」の名声を効果的に活用しながら、さらなる情報発信を行っていく。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(5) 旧ニュータウンでの交通対策</p> <ul style="list-style-type: none"> バブル期の昭和後期～平成初期に整備された旧ニュータウンは、造成から30余年が経過し、居住者の高齢化が顕著になってきました。最大の懸案が「交通対策」です。中山間地と同様に、路線バスの本数が少なく、100円バスのルート外で免許返納後の生活に大きな不安を抱え、転居を検討する住民も少なくありません。このままでは地域コミュニティ崩壊の危惧すら感じています。 住民主体の「地域交通」は、バス路線が廃止になったエリアなど「公共交通空白地域」が対象で、バス路線がある地域に関しては認められていない現状です。 しかし、旧ニュータウンの主たる住民が免許返納時期を迎えても、バスの運行本数は変わらず、「我慢しろ」のままで決して良いとは思えません。 ぜひ県では、旧ニュータウンの住民主体の地域交通導入の条件緩和に関して、市町村と協議して国に対し、要件緩和を求めていただくよう要望します。 	<p>県では、市町村に対して、「新たな地域交通体系構築支援補助金」等により、多様な手段の中から地域の実情に応じた移動手段を選択していただけるよう、柔軟な支援を行っているところである。</p> <p>それぞれの地域に望ましい移動手段については、まずは市町村が地域や事業者の声を聴きながら検討を進めていただくことが必要であり、その具体化の中で、県としても必要な対応を検討したい。</p>
<p>(6) 中・高生による情報発信アワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 先日開催された高校生議会で、2校(米子松蔭・米子北斗)から、高校生による動画やプレゼン等での情報発信についてコンテストを開催して欲しいという要望がありました。中学や高校での探究学習の成果を発表する場として、「観光」「地域課題解決」などテーマ別に、アワードの創設を前向きにご検討いただきたく要望します。 	<p>小・中学校及び高等学校を対象として、ふるさと鳥取の魅力を紹介するCMコンテストの開催について、令和5年度当初予算で検討する。</p>